

命の重み 心に刻む

盛岡二高 本紙記者から学ぶ



東日本大震災発生時の話に、真剣に耳を傾ける生徒たち

盛岡二高（小原貴人校長、生徒579人）の1年生187人は21日、盛岡市上ノ橋町の同校で、東日本大震

災に関する出前授業を受けた。命の重みや防災について、主体的に考える大切さを心に刻んだ。

岩手日報社報道部の金野訓子次長が、震災後の10年を振り返った。避難者名簿の掲載や、犠牲者の生前の記録を残すため顔写真と人柄を記した企画「忘れない」などを紹介した。

金野次長は「皆さんは震災の記憶が残る一番若い世代。少しでも身近に感じ、次の世代に伝えてほしい」と呼び掛けた。

出前授業は被災地訪問の事前学習。26日に陸前高田市の東日本大震災津波伝承館を見学し、高田松原でボランティア活動を行う。

佐藤咲菜さんは「避難先

で亡くなった人もいて、そこ（への避難）が正しいとは限らない。自分で考え命を守る行動をしたい」と誓った。

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。

（岩手日報）